

御子柴道夫教授の略歴

昭和21年	長野県に生まれる
昭和43年 3月	早稲田大学第一文学部露文学専修卒業
昭和43年 4月	早稲田大学大学院文学研究科露文学専攻（修士課程）入学
昭和46年 3月	早稲田大学大学院文学研究科露文学専攻（修士課程）修了（文学修士）
昭和46年 4月	早稲田大学大学院文学研究科露文学専攻（博士課程）入学
昭和50年 3月	早稲田大学大学院文学研究科露文学専攻（博士課程）単位習得満期退学
昭和49年 4月	千葉大学教養部非常勤講師
平成1年 4月	千葉大学助教授教養部に採用
平成6年 6月	千葉大学助教授外国語センターに配置換
平成7年12月	千葉大学教授外国語センターに昇任
平成10年 4月	千葉大学大学院文学研究科兼任
平成13年 2月	千葉大学大学院社会文化科学研究科担任
平成15年 4月	千葉大学教授国際教育開発センターに配置換
平成17年 4月	千葉大学教授言語教育センターに配置換え
平成23年 3月	同退職

御子柴道夫教授の研究業績

著書

1) 単著

1. 『ソロヴィヨフとその時代：第一部 1853～1881』 刀水書房、1982年。
2. 『ソロヴィヨフとその時代：第二部 1882～1900』 刀水書房、1982年。
3. 『ロシア精神のゆくえ：聖と俗の対話』NTT出版、1993年。
4. 『ロシア宗教思想史』 成文社、2003年。
5. 『ソロヴィヨフ：幻視者・詩人・哲学者』 岩波書店（近刊）。

2) 編著

1. 『道標：ロシア革命批判論文集1』 現代企画室、1991年（長縄光夫氏との監訳）。
2. 『深き淵より：ロシア革命批判論文集2』 現代企画室、1992年（長縄光夫氏との監訳）。
3. 『20世紀ロシア思想の一断面：亡命ロシア人を中心として』 千葉大学社会文化科学研究科プロジェクト研究報告書第106号、2005年。
4. 『ロシア革命と亡命思想家：1900-1946』 成文社、2006年。
5. 『ロシア思想史の多面的包括的再構築：課題番号15320035』 平成15～18年度科学研究費補助金（基盤研究（B））、2007年。

論文

1. 「ウラジミール・ソロヴィヨフの美学及び詩論」『ヨーロッパ文学研究』第14号、早稲田大学ヨーロッパ文学研究会、1968年、81-102頁。
2. 「ロシア哲学の成熟と崩壊：ウラジミール・ソロヴィヨフ論」『初原』第2号、現代思潮社、1971年、6-33頁。
3. 「ロシア象徴主義の問題：思想面よりのアプローチ」『ヨーロッパ文学研究』第21号、早稲田大学ヨーロッパ文学研究会、1973年、44-67頁。
4. 「十字架の思惟（一）：ロシア形而上学研究のための一エッセー」『創文』1974年、8-12頁。
5. 「スラヴ派におけるソボルノスチ理念の展開について：その1 イワン・キレーフスキイ」『ロシア思想史研究会経過報告：研究誌発刊のための準備ノート』第1号、1974年、11-24頁。
6. 「十字架の思惟（二）：ロシア形而上学研究のための一エッセー」『創文』1975年、17-20頁。
7. 「スラヴ派におけるソボルノスチ理念の展開について：その2 アレクセイ・ホミャコフ」『ロシア思想史研究会経過報告：研究誌発刊のための準備ノート』第2号、

- 1975年、13-48頁。
8. 「十字架の思惟（三）：ロシア形而上学研究のための一エッセー」『創文』1975年、17-20頁。
 9. 「存在の確かさを求めて（一）：ロシア形而上学研究のための一エッセー」『創文』1976年、15-18頁。
 10. 「スラヴ派におけるソボルノスチ理念の展開について：その3 ウラジーミル・ソロヴィヨフ（1）」『ロシア思想史研究会経過報告：研究誌発刊のための準備ノート』第3号、1976年、11-24頁。
 11. 「存在の確かさを求めて（二）：ロシア形而上学研究のための一エッセー」『創文』1976年、6-9頁。
 12. 「スラヴ派におけるソボルノスチ理念の展開について：その4 ウラジーミル・ソロヴィヨフ（2）」『ロシア思想史研究会経過報告：研究誌発刊のための準備ノート』第4号、1976年、10-25頁。
 13. 「スラヴ派におけるソボルノスチ理念の展開について：その5 ニコライ・ダニレーフスキー」『ロシア思想史研究会経過報告：研究誌発刊のための準備ノート』第5号、1978年、12-27頁。
 14. 「イワヌシカからマソンの神殿へ：18世紀ロシア文学におけるロシアとヨーロッパ」『千葉大学教養部研究報告 A』第14号、千葉大学教養部、1981年、33-84頁。
 15. 「ソロヴィヨフとロシア正教」『ロシア史研究』第37号、ロシア史研究会、1983年、2-27頁。
 16. 「ソロヴィヨフとロシア思想の潮流：ロシア思想の一断面」『千葉大学教養部研究報告 A』第24号、千葉大学教養部、1991年、229-262頁。
 17. 「アレクセイ・ホミャコフのキリスト論」『交錯する言語』名著普及会、1991年、147-169頁。
 18. 「О непублкованных письмах Вл. Соловьева.」『千葉大学教養部研究報告 B』第26号、千葉大学教養部、1992年、225-247頁。
 19. 「О восприятии идей Вл.Соловьева в Японии.」『千葉大学教養部研究報告 B』第26号、千葉大学教養部、1993年、271-277頁。
 20. 「ロシアの淵より：ソロヴィヨフからの出発」『現代思想』第22巻第7号、青土社、1994年、46-76頁。
 21. 「ロシアの淵より：東方神学からの出発」『現代思想』第22巻第9号、青土社、1994年、182-213頁。
 22. 「ロシアの淵より：回帰」『現代思想』第22巻第13号、青土社、1994年、34-62頁。
 23. 「ロシア思想史 第一章：根茎——11世紀から16世紀まで——」『言語文化論叢』第2号、千葉大学外国語センター、1996年、1-62頁。
 24. 「ロシア思想史 第二章：アンチノミイ——17世紀まで——」『言語文化論叢』第4号、千葉大学外国語センター、1996年、1-62頁。

25. 「ソロヴィヨフの黙示録の構造」『幻想文学』第54号、アトリエОСТА、1999年。48-54頁。
26. 「セミョーン・リウドヴィゴヴィチ・フランク：革命の嵐の中で」『言語文化論叢』第5号、千葉大学外国語センター、1999年、1-23頁。
27. 「ウラジーミル・ソロヴィヨフの著書『ドストエフスキイを記念する3つのスピーチ』の欄外に記されたコンスタンチン・レオンチェフの手稿の書込みをめぐる」『言語文化論叢』第6号、千葉大学外国語センター、1999年、69-108頁。
28. 「ロシア思想史 第三章：変と不変」『言語文化論叢』第8号、千葉大学外国語センター、2001年、1-37頁。
29. 「ロシア思想史 第四章：カエサル之国と神之国」『言語文化論叢』第10号、千葉大学外国語センター、2002年、1-38頁。
30. Расхождение Владимира Соловьева и Константина Леонтьева во взглядах на идеи Достоевского «всемирная гармония» и «всечеловеческое единение»//XXI век глазами Достоевского: Перспективы человечества. Изд. Грааль. М., 2002. С. 58-64.
31. 「ウラジーミル・ソロヴィヨフの終末論」『ロシア思想史研究』第1号、「ロシア思想史の多面的包括的再構築」2003年度年次報告集、科学研究費基盤研究（B）（平成15～18年度、課題番号15320035）、2004年、161-174頁。
32. О пометках К. Леонтьева на полях брошюры Вл. Соловьева «Три речи в память Достоевского» //Соловьёвские исследования. Периодический сборник научных трудов. Выпуск 8. Ивановский государственный энергетический университет. Иваново, 2004. С. 32-54.
33. О непубликованных письмах Вл.Соловьёва//Соловьёвские исследования. Периодический сборник научных трудов. Выпуск 9. Ивановский государственный энергетический университет. Иваново, 2004. С. 112-145.
34. О восприятии идей Вл. Соловьёва в Японии//Соловьёвские исследования. Периодический сборник научных трудов. Выпуск 9. Ивановский государственный энергетический университет. Иваново, 2004. С. 160-169.
35. 「二つのピョートル大帝観：セルゲイ・ソロヴィヨフとウラジーミル・ソロヴィヨフ」『ロシア思想史研究』第2号、「ロシア思想史の多面的包括的再構築」2004年度年次報告集、科学研究費基盤研究（B）（平成15～18年度、課題番号15320035）、2005年、63-75頁。
36. Эсхатология Вл. Соловьёва//Владимир Соловьёв и культура серебряного века. Москва, 2005. С. 221-225.
37. 「ソロヴィヨフ『人生の霊的基礎』に見られる罪と自由のイデー」『ロシア思想史研究』第4号、「ロシア思想史の多面的包括的再構築」2005年度年次報告集、科学研究費基盤研究（B）（平成15～18年度、課題番号15320035）、2006年、145-154頁。

38. 「イヴァン・キレエフスキイにおける『フセレーンスカヤ・ツェルコフィ』の理念」『ロシア思想史研究』第4号、「ロシア思想史の多面的包括的再構築」2006年度年次報告集、科学研究費基盤研究（B）（平成15～18年度、課題番号15320035）、2007年、57-67頁。

翻訳

1) 単行本

1. ソロヴィヨフ『愛の意味・ドストエーフスキイ論』東宣出版、1970年。
2. ソロヴィヨフ『ソロヴィヨフ選集② 神人論：神人に関する講義』東宣出版、1972年。
3. ソロヴィヨフ『ソロヴィヨフ選集③ 人生の霊的基礎：イヴァン・オシポーヴィチ・ラブシーンとイヴァン・エゴロヴィチ・グドレットを記念して』東宣出版、1973年。
4. ソロヴィヨフ『ソロヴィヨフ選集⑤ 世界終末論—三つの会話—：今はなき青春時代の友にニコライ・ミハイロヴィチ・ロパーチンとアレクサンドル・アレクサンドロヴィチ・ソコロフに捧ぐ』東宣出版、1973年。
5. ソロヴィヨフ『ソロヴィヨフ選集① 西欧哲学の危機：実証主義者たちに反駁して』東宣出版、1973年。
6. ソロヴィヨフ『ソロヴィヨフ著作集5 三つの会話：戦争・平和・終末』刀水書房、1982年。
7. ソロヴィヨフ『ソロヴィヨフ著作集5 三つの会話：戦争・平和・終末』改訂版、刀水書房、2010年。

2) 論文

ソロヴィヨフ「プラトンの悲劇」『エイコーン：東方キリスト教研究』第22号、新世社、2000年、2-31頁。

学会発表

1. 「正教と国家：ソロヴィヨフとロシア正教」ロシア史研究会1982年度大会、1982年10月（於東京大学）。
2. О восприятии идей Вл. Соловьева в Японии//Международная научная конференция «А. Ф. Лосев: Философия, филология, культура». Москва, 1993. 18-23 окт.
3. 「1920年代におけるインテリゲンツィヤの運命：フランクの場合」ロシア史研究会1998年度大会、1998年10月（於大阪大学）。
4. 「ドストエフスキーの全人類的結合について、レオンチェフとソロヴィヨフの読みの比較」国際ドストエフスキー研究集会（於千葉大学）、2000年、8月22-25日。
5. Вл. Соловьев и эсхатология//Международная научная конференция «Вла

димир Соловьев и культура серебряного века》. Москва, 2003. 14-17 окт.

・書評

「S. チェトヴェーリコフ『オープンチナ修道院』」『ロシア文化研究』第4号、早稲田大学ロシア文学会、1997年、137-141頁。

その他

1. 「木下先生を送る（含 生涯と学術教育活動・著作年譜）」『千葉大学人文研究』千葉大学文学部、図書・紀要編集委員会、2002年、15-37頁。
2. 「山岡捷利先生のこと」『言語文化論叢』第2号、千葉大学言語教育センター、2008年、5-6頁。

渡辺 圭 作成